

「食べさせていただけませんか」の適用と
その違和感
～留学生と日本人の知覚～

VINDY EKA YULIANITA

08187001

日研生

群馬大学

2009

1. はじめに

日本語を学んでいる学習者に「させていただく」と「使役」のことが教えられる。使役というのは他人を使ってあることをさせることである。動詞の未然形に助動詞「(さ)せる」「しめる」(口語)、「(さ)す」「しむ」(文語)をつけて使役を表す用法である。また、「させていただく」といった敬語の形式は、基本的に自分側を行うことを相手側または第三者の許可を受けて行い、そのことで恩恵を受けるという事実や気持ちのある場合に使われる。したがって、その条件をどの程度満たすかによって、「食べさせていただけませんか」という表現には適切な場合と、あまり適切だとは言えない場合とがある。

来日する前の知っている「させていただく」の意味と日本で実際の会話をする時の「させていただく」の意味と違いが分かった。以下のような経験をした。食堂で出会ったばかりの日本人の友達と一緒に昼ごはんを食べた。その時、まだしたくはなかったため、普通形の日本語で話さなかった。

私 : すみませんが、あなたのチョコレートが美味しそうですよ。少し食べさせていただけませんか。

友達 : えっ、いいですか。(違和感があるような顔で、言った)

私 : はい。(どうして、そう聞くのかと疑問が抱いた。深く考えず、「はい」と言った)

それで、びっくりことは、その子はチョコレートを手で私の口元まで食べさせた。私はそのチョコレートを食べる許可をもらうように、「させていただく」を使うわけだった。私の口元まで食べさせたくなかった。しかし、友達はそう思わなかった。それはこの「させていただく」の意味が本来の尊敬の意味ではなく、使役の意味として捉えられてしまったのだ。「させていただく」は基本的に自分側を行うことを相手側または第三者の許可を受けて行い、そのことで恩恵を受けるという事実や気持ちのある場合に使われる。だが、「すみませんが、少し食べさせていただけませんか」の表現の中では、相手が許可をあげると、相手も行動させる場合もある。つまり、この場合では自分側を行うことを相手側または第三者の許可を受けていくだけではなく、行動も伴われる意味となる。友達は違和感を感じられたようだ。それで、私は留学生と日本人の「食べさせてさせていただく」に対する行動、その違和感の原因、いつ使えるのもデータを基づいて書くと思う。

2. 定義

文化審議会答申『敬語の指針』(「平成 19 年度版」)は「させていただく」といった敬語の形式は、基本的に自分側を行うことを相手側または第三者の許可を受けて行い、そのことで恩恵を受けるという事実や気持ちのある場合に使わ

れる。

『日本語表現・文型辞典』、『2002 年度版』は「セル・サセル」を用いて、相手の許可・了承を得ているかのように表現しているが、実際は表現者の側からの一方的処置である。この表現は、許可・許容することを相手に押し付けているので、このようなものを押し付け使役という。また、「いただく」など謙譲語と共起するので、謙譲使役ともいう。この表現の特徴は、格の交替を含まないことや使役主格・被使役格を省略するところなどになる。

3. 調査

このレポートのため、「食べさせていただく」の適用とその表現の違和感というアンケートを 28 人の群馬大学の留学生と 32 人の日本人の大学生に配った。次のようなアンケートとその結果である。

(アンケートは最後のページに添付した)

Q1、「あなたが山田さんだとしたら、どちらの行動をとりますか？」に対する答えによると、「相手に「はい」または「どうぞ」を言いながら、口元まで持って行ってあげる」という答えをした日本人は 32 人中 15 人で 47%の割合である。一方、この答えをした留学生は 28 人中 2 人で 7%の割合である。

「相手に「はい」または「どうぞ」と言いながら、わたす」という答えをした日本人は 32 人中 17 人で 53%の割合である。しかし、この答えをした留学生は 28 人中 26 人で 93%の割合である。

Q2、「あなたが山田さんだとしたら、そう聞かれると、違和感が感じますか。または驚きますか。」に対する答えによると、「違和感を感じる・驚く」という答えをした日本人は 32 人中 25 人で 78%の割合である。それに対して、留学生は 28 人中 4 人で 14%の割合である。

「違和感が感じない・驚かない」という答えをした日本人は 32 人中 7 人で 22%の割合である。一方、留学生は 28 人中 24 人で 86%の割合である。なぜこの確率が出来たかの理由は本論で詳しく述べる。

4. 本論

4.1 使役の用法について説明する

日本語では動詞が 3 つを分かれる。動詞グループ 1 は「う、つ、る、ぶ、む、ぬ、く、ぐ、す」だという未然形が付いている動詞である。次は動詞グループ 2 は「える、いる」だという未然形が付いている動詞である。最後に、動詞グループ 3 は基本的に「する」と「来る」しかない。その上、「名詞+する」もグループ 3 になることに決まっている。例えば、「電話+する」は「電話する」を組み立てる。「使役」の基本的に他人を使ってあることをさせることである。動

詞の未然形に助動詞「(さ) せる」「しめる」(口語)、「(さ) す」「しむ」(文語)をつけて使役を表す用法である。

4.2 動詞普通形を使役形に変える。

動詞グループ 1 を使役に変える

普通形	未然形	使役形
買う	～わせる	買わせる
立つ	～たせる	立たせる
座る	～らせる	座らせる
遊ぶ	～ばせる	遊ばせる
飲む	～ませる	飲ませる
死ぬ	～なせる	死なせる
歩く	～かせる	歩かせる
泳ぐ	～がせる	泳がせる
話す	～させる	話させる

動詞グループ 2 を「使役形」に変える。

普通形	未然形	使役形
食べる	～させる	食べさせる
寝る	～させる	寝させる
見る	～させる	見させる
起きる	～させる	起きさせる

動詞グループ 3 を「使役形」に変える。

普通形	未然形	使役形
コピーする	～させる	コピーさせる
電話する	～させる	電話させる
来る	～させる	来させる

使役形の未然形に「～ていただく」を付けると「させていただく」といった敬語の形式になるわけである。

4.3 させていただく」に対しての日本語を勉強している外国人の知識

日本語を勉強している外国人は「使役」と「させていただく」の用法しか分からないものである。「食べさせていただけませんか」はただの動詞グループ2の「食べる」を使役形に変更し、未然形に「～ていただけませんか」を付くものである。その表現の意味は自分側を行うことを相手側または第三者の許可を受けて行いことしか知らない。また、その表現のニュアンスもあまり分からない学習者が少なくない。しかし、実際の日本人との会話でその表現は少し違和感があると言われた。

次のようなフレーズについての意味がよく分からない学習者は少なくない。外国人と日本人との会話である。

「すみませんが、そのお菓子、美味しそうですね。食べさせていただけませんか。」

とお菓子を食べる許可をもらうために相手の外国人は「させていただく」といった敬語を使った。しかし、目上の日本人は可笑しげな顔をした。なぜかという、日本人はそう言われたら、アンケートを基づいて次のような理由が出た。

1. 自分が相手の口元までお菓子を持ってあげるのを気がされたから。
2. それほど親しくない人であった場合、なぜ相手に食べさせてあげなければいけないのか、一瞬戸惑いを感じるから。
3. 食べさせてほしいのかと思うから。
4. 「食べたい」という語感なら「いただいてもよろしいですか」などというほうが自然だから。「させて」が使役っぽく聞こえるから。
5. 手とかが不自由だったり、使えなかったりした人なら、理解できます。
6. 仲良くない人に言われたら、ビックリする。恋人同士だとしたら、それは正しい表現だと思う。

などである。それで、違和感を感じた。だが、相手はお菓子を口元まで持ってくれるなんての行動を期待しなく、ただ許可を期待するのみである。つまり、この会話では両方も誤解した。

それに対して、ほとんど違和感が感じない日本人と外国人の理由は次のように述べる。

1. 普通の会話だと思うから。
2. 「食べても良いですか」というフレーズと同じ意味だから。
3. 「食べてもいい」の尊敬語ぐらいだから。
4. ただ美味しいものをシェアーする、全然気にしてないから。
5. 普通の会話だから。

述べたことからみると、日本語を勉強している外国人と日本人の感覚が大体違うのが分かった。留学生同士との会話で「食べさせていただけませんか」は普通の会話と思っているが、日本人にとって、そのフレーズは不適用である。

5. 結論

「させていただく」といった敬語の形式は様々な使い方がある。文化審議会答申の『敬語の指針』によれば、「させていただく」は基本的に自分側を行うことを相手側または第三者の許可を受けて行い、そのことで恩恵を受けるという事実や気持ちのある場合に使われる。そのほか、アンケートによれば、「させていただく」がこのケースで「食べさせていただけませんか」は体が不自由な人が使える場合もある。自分がやることが出来ない場合、他の人に頼まれる時に、相手の行動を期待するときに「させていただく」もよく使うようだ。他の例は次のように述べる。

1. 飲ませていただけませんか。

インタビューで日本人がそのような聞かれたら、12人に10人が相手の口元まで飲み物をもってきてくれることが現せた。

2. その、IPODの音楽を聞かせていただけませんか。

インタビューで日本人が相手の耳までエアホンをもってきてくれることを現せた。

3. すみませんが、昨日二人が作った予定を変えさせていただけませんか。

日本人の先生がそれに対して違和感を感じる。なぜなら、この表現の中では、相手が許可をあげると、相手も予定を変えることになっている。その予定は自分の予定ではなく、相手との予定なので、自分が予定の変更を頼むと、相手も自然に予定を変更されるからである。

一方、それを留学生に聞くと、97%が「はい」とか「どうぞ」を言いながら、渡す行動をするしかないことを現した。

つまり、述べた例に基づいて、「させていただく」はこれらの場合では自分側を行うことを相手側または第三者の許可を受けていくだけではなく、行動も伴われる意味となる。これらの違いによって日本人には違和感を感じられたようだ。

この「させていただく」のニュアンスについて分からない日本語を勉強している外国人が少なくない。日本人と会話する時に、誤解を起こるおそれがあると思う。「させていただく」いわゆる相手の許可をもらいたいなら、「食べさせていただけませんか」は「食べてもよろしいですか」を言っても可能であると思っている。外国人はこの「させていただく」の適用の仕方について違いを認識しながら場面に応じて言葉を使い分けることが大切である。

<参考文献>

1. 文化審議会答申、(2007)『敬語の方針』、
http://www.bunka.go.jp/bunkashingikai/soukai/pdf/keigo_tousin.pdf
2. 『日本語表現・文型辞典』、(2002)、株式会社朝倉書店